

令和7年度 商圏分析レポート（壬生町）

1. 基本概要

位置：栃木県下都賀郡壬生町

人口：38,359 人（2024 年）

世帯数：16,529 世帯（2024 年）

昼夜間人口比：93.1（2020 年）

高齢化率：29.0%（2020 年）

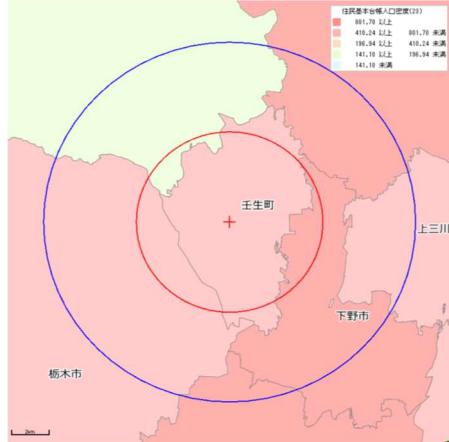


図 1：壬生町の位置と人口分布

2. 商圏特性

(1) 産業構造

事業所数：1,462 所（2021 年）

業種別割合：

卸売・小売業：23.1%（337 事業所）

建設業：13.1%（191 事業所）

製造業：10.5%（154 事業所）

宿泊・飲食業：10.3%（151 事業所）

順位	先数上位業種(所)	偏差値	比率上位業種(%)	偏差値
1	卸売小売	337	45.9	23.1
2	建設業	191	46.1	13.1
3	製造業	154	45.0	10.5
4	宿泊飲食	151	45.6	10.3
5	生活関連	136	46.0	9.3

図 2：産業別事業所割合

(2) 購買力

消費購買力：555 億円（2023 年）

1 世帯あたり消費購買力：339.6 万円

消費の特徴：

- 腕時計・婚礼関係費が多い
- 茶類の他、洋服・子供用被服の支出割合が高い

順位	金額・偏差値	比率・偏差値
1	腕時計	48.1
2	婚礼関係費	47.9
3	地代	47.7
4	スポーツ観覧料	47.3
5	葬儀関係費	47.2

*順位は全（166）品目中

図 3：消費購買力の分野別比較

3. 住宅・生活環境

持ち家比率：71.1%（2020 年）

商業施設充足度：

- コンビニ数（人口 1 万人あたり 2024 年）：5.0（県内平均より高い）
- 医療施設（医師数/1,000 人 2022 年）：18.0（県内平均より大幅に多い）

4. 課題と今後の展望

【課題】

1. 若年層の急激な減少と少子高齢化の加速

壬生町の将来推計人口（2030年）では、総人口が5.3%減少する見込みですが、特に15歳未満の幼年人口は20.3%減と大幅な減少が予測されています。高齢者（65歳以上）比率も2020年の29.0%から2030年には32.1%へと上昇する見通しであり、次世代を担う層の確保が喫緊の課題です。

⑯ 将来人口			
指標名	人数(人)	構成比(%)	伸び率(%)
将来人口総数	37,386	100.0	-5.3
幼年人口(15歳未満)	3,729	10.0	-20.3
生産年齢人口(15~64歳)	21,659	57.9	-4.1
高齢人口(65歳以上)	11,998	32.1	4.9

*伸び率は30/20年

図4：将来人口（2030年）

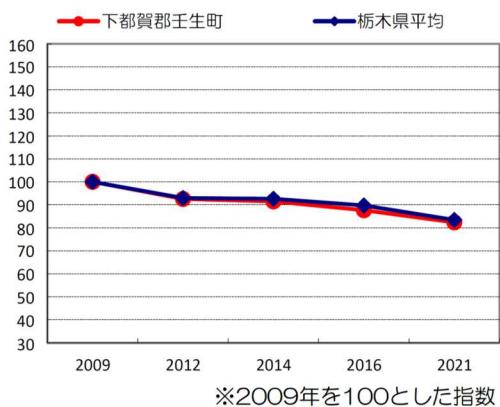


図5：民営事業所数推移

【今後の展望】

1. 製造業における圧倒的な成長力と産業基盤の強化

製造品出荷額の伸び率（2019年比）は78.1%と県内1位を記録しており、産業用建築物の着工床面積も県内2位と、製造業を中心とした経済的勢いは非常に強力です。この高い生産性を背景に、さらなる企業誘致や雇用創出の可能性があります。

2. 高い住民の購買力と充実した医療資源

1人当たりの課税対象所得額は県内7位（1,551千円）と高く、富裕分野の偏差値（54.1）も県内上位です。また、人口1千人当たりの医師数は18.0人（偏差値85.2）と極めて高く、健康で豊かな生活環境を維持できるポテンシャルを持っています。これらを活かした質の高い居住エリアとしての発展が期待できます。

【まとめ】

壬生町の状況を例えるなら、「強力なエンジン（製造業）と豊かな燃料（住民の富）を備えた船が、乗組員の減少（少子化）という荒波に直面している状態」と言えます。この強力な推進力を、いかにして次世代の担い手を呼び込むための壬力作りに転換できるかが、今後の航路の鍵となるでしょう。